

A large, stylized orange human figure is positioned in the upper right quadrant of the page. The figure is composed of thick, rounded lines and is set against a white circular background. The overall background of the page is a vibrant, abstract composition of overlapping, semi-transparent geometric shapes in various colors including blue, green, purple, pink, and orange, creating a sense of movement and energy.

OKAYAMA  
SHINKIN

2025  
DISCLOSURE

上半期 REPORT

2025年4月1日～2025年9月30日



おかやま信用金庫



地域のみならずと共に、  
さまざまな活動に取り組んでおります。

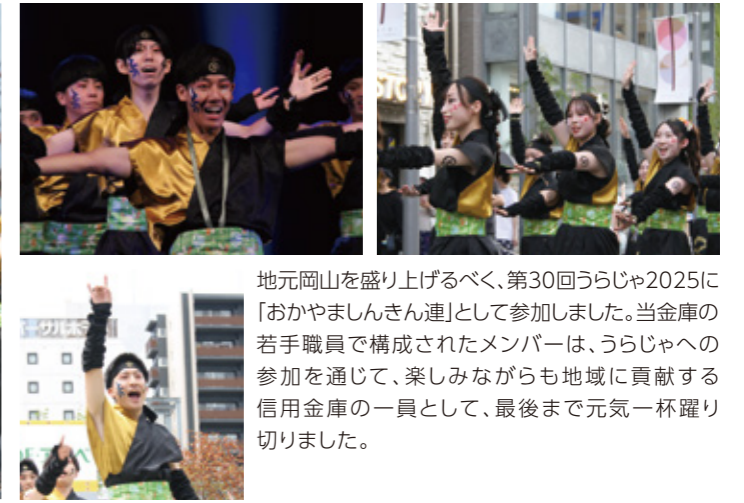
## 2025年度上半期の地域貢献活動&トピックス

### 「飽浦地内林野火災」に対する支援金の贈呈



2025年3月に発生した山林火災により被災した地域住民の皆様へのお見舞いとともに、被害の復旧・復興を支援するため、岡山市へ300万円の支援金を贈呈いたしました。

### 「うらじゃ」への参加



地元岡山を盛り上げるべく、第30回うらじゃ2025に「おかやましんきん連」として参加しました。当金庫の若手職員で構成されたメンバーは、うらじゃへの参加を通じて、楽しみながらも地域に貢献する信用金庫の一員として、最後まで元気一杯躍り切りました。

### 第30回お取引先新入社員研修会



お取引先事業者様の人材育成のお力になるべく、「第30回お取引先新入社員研修会」を開催し、46社、94名の新入社員の方々にご参加いただきました。「ビジネスマナー」を中心に当金庫の職員等が講師となり研修をおこない、ご参加いただいたお取引先事業者様からも高い評価をいただいております。

### 視察研修の受け入れ



奈良中央信用金庫の経営者の会「ならちゅうしん経営研究会」の会員様15名が来岡されました。当日は、当金庫のお取引先企業2社をご訪問いただくとともに、当金庫の若手経営者の会「おかやまPRODUCE」会員との交流もおこなわれました。

### 信用金庫の日(献血活動・清掃活動・映画鑑賞会)



6月15日の「信用金庫の日」にちなみ、地域貢献活動として、献血活動および清掃活動をおこないました。献血活動は、職員89名が採血を実施、また、清掃活動は同321名が所属する営業部店周辺の清掃活動を実施いたしました。また、映画鑑賞会を開催し、162名のお客様にご来場いただきました。

### 「おかやましんきん相好会」ゴルフ大会



ゴルフを通じて健康の増進と会員相互の親睦と交流を図ることを目的として、2025年度は、おかやましんきん相好会ゴルフ大会を6月に玉野ゴルフ倶楽部(86名参加)と岡山カントリークラブ(107名参加)の2会場で開催いたしました。

### 特殊詐欺被害防止による表彰



特殊詐欺被害を未然に防いだとして当新田支店(団体)および職員(個人)が、岡山南警察署および岡山南金融機関防犯協議会から感謝状を授与されました。

### お客様向け「資産運用セミナー」



お客様のライフステージに合った情報を提供し、「生涯価値の向上」を図る目的で、「資産運用セミナー」を8回開催し、のべ111名のお客様にご参加いただきました。

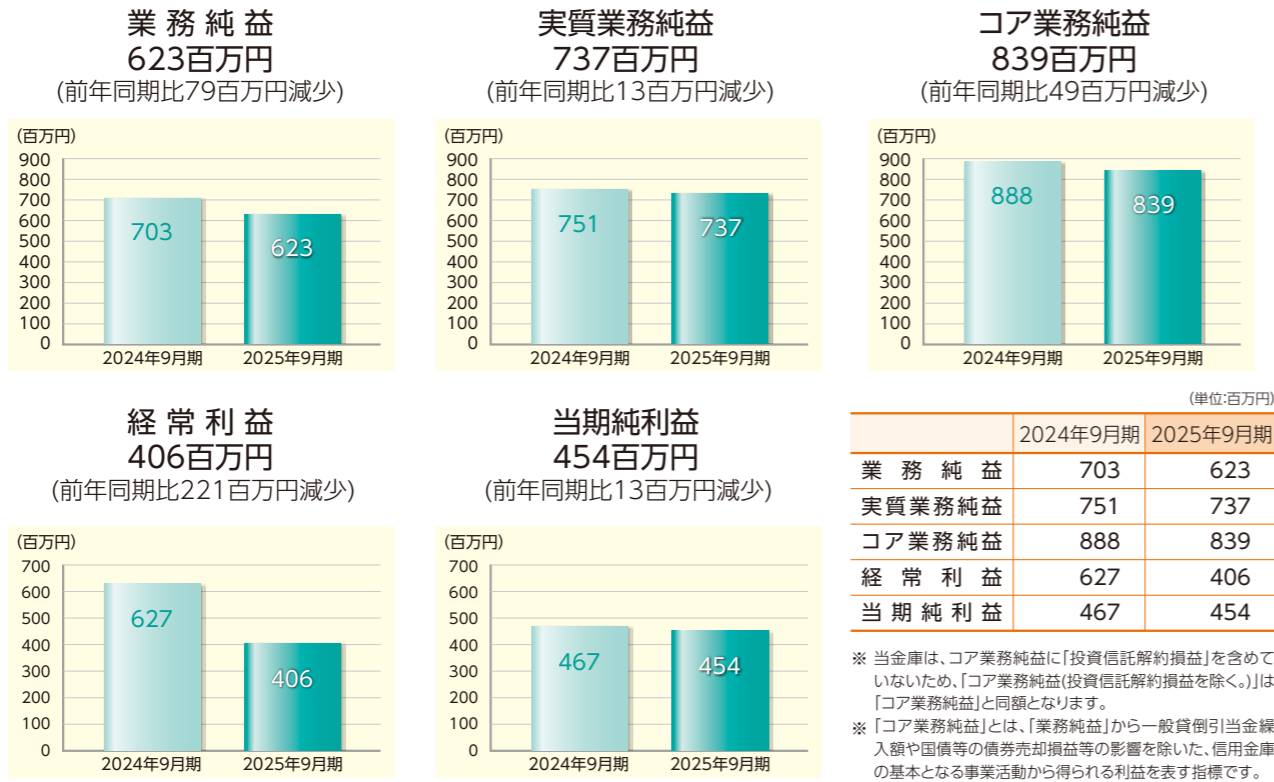
### ファジアーノ岡山「おかやま信金デー」チーム強化資金寄贈



2024年12月から3か月間取り扱いました「おかやましんきんファジアーノ岡山応援定期2025SEASON」の預入総額が、一定の金額に達したことから、9月13日開催のファジアーノ岡山ホームゲーム「おかやま信金デー」において、ファジアーノ岡山にチーム強化資金として200万円を寄贈いたしました。



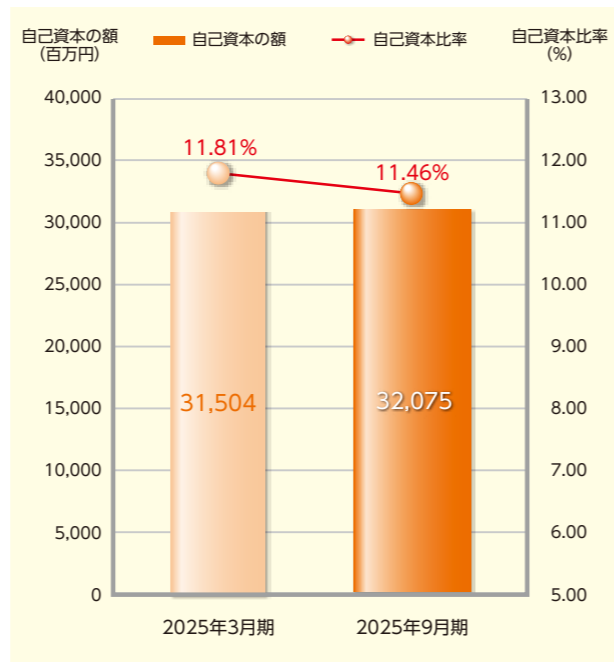
## 損益の状況(単体)



## 自己資本比率と自己資本の額(単体・国内基準)

(単位:百万円)

項目	2025年3月期	2025年9月期
<b>(自己資本)</b>		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	31,184	31,639
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,764	1,764
うち、利益剰余金の額	29,472	29,874
うち、外部流出予定額(△)	52	-
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	850	950
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	850	950
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	32,035	32,590
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。)の額の合計額	20	14
前払年金費用の額	510	499
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	531	514
自己資本の額((イ)-(ロ))(ハ)	31,504	32,075
<b>(リスク・アセット等)</b>		
信用リスク・アセットの額の合計額	255,528	268,836
マーケット・リスク相当額の合計額を八％で除して得た額	-	-
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八％で除して得た額	11,010	11,010
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	266,538	279,846
<b>(自己資本比率)</b>		
単体自己資本比率((ハ)/(ニ))	11.81%	11.46%



自己資本比率は、金融機関の健全性を表す指標のひとつで、国内のみで業務をおこなう金融機関は**4.00%以上**が必要とされており、

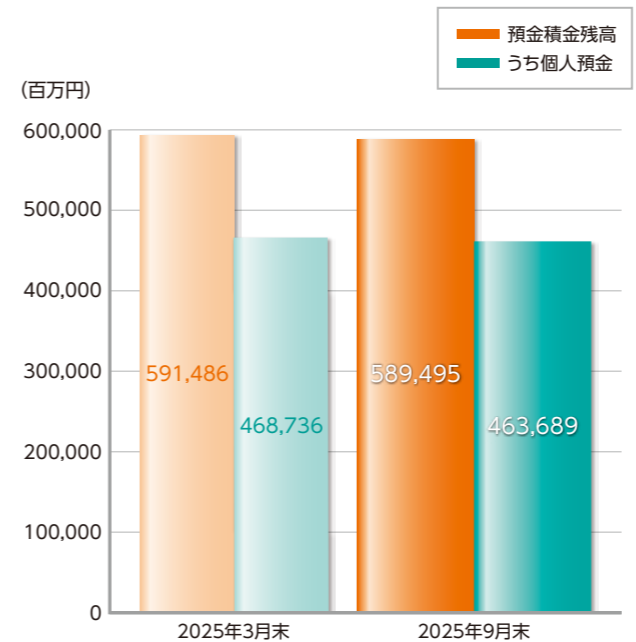
**当金庫の2025年9月末の自己資本比率は11.46%であり、「経営体質が健全で問題がない金融機関」に該当します。**

(注) 「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準により自己資本比率を算出しております。

## 預金積金・貸出金等の状況(単体)

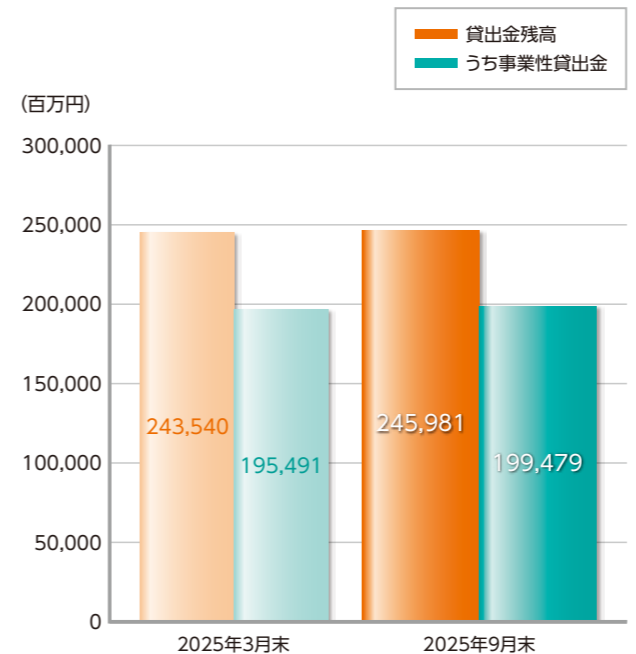
### 預金積金残高/うち個人預金

地域のお客様の生涯価値の向上に貢献できるよう、新商品の開発やライフステージに合った提案をはじめとした金融サービスの一層の充実を図り、今後も皆様から信頼される業務運営をおこなってまいります。



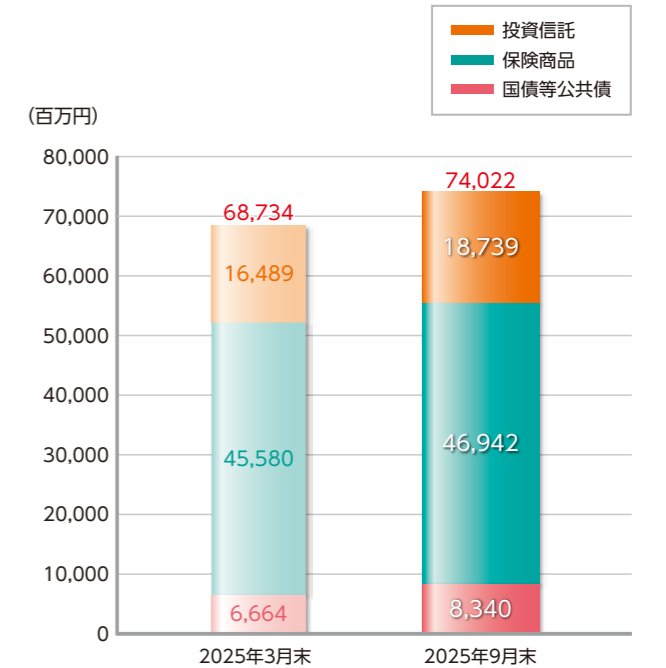
### 貸出金残高/うち事業性貸出金

協同組織金融機関の恒久的な使命として、会員事業者様の事業価値の向上に資するため、事業性融資推進に取り組みました。今後も、地域密着型金融の推進こそが、当金庫の存在意義であるという認識のもと、付加価値営業を中心とする「バリューアップ型金融モデル」を継続的に実践してまいります。

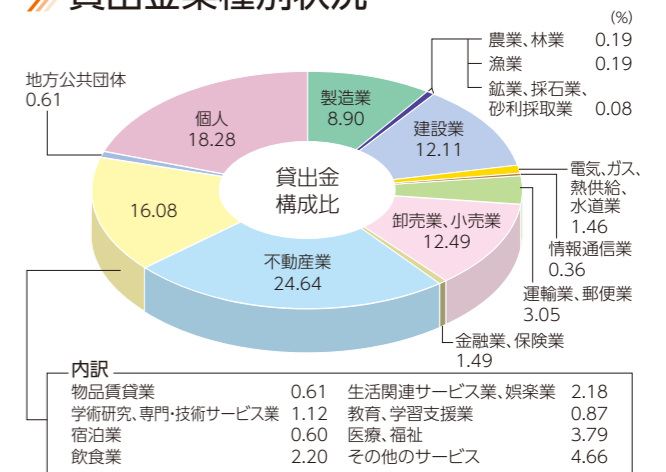


### 預かり資産残高

多様なニーズにお応えするため、市場・経済動向などに関する情報提供をおこなうとともに資産運用相談業務に積極的に取り組んでおります。



### 貸出金業種別状況



(単位:百万円)

業種	貸出金残高	業種	貸出金残高
製造業	21,907	物品貸貸業	1,522
農業、林業	477	学術研究、専門・技術サービス業	2,771
漁業	479	宿泊業	1,494
鉱業、採石業、砂利採取業	200	飲食業	5,434
建設業	29,789	生活関連サービス業、娯楽業	5,365
電気、ガス、熱供給、水道業	3,598	教育、学習支援業	2,155
情報通信業	909	医療、福祉	9,338
運輸業、郵便業	7,512	その他のサービス	11,473
卸売業、小売業	30,742	<b>小計</b>	<b>199,479</b>
金融業、保険業	3,678	地方公共団体	1,521
不動産業	60,626	個人	44,980
<b>合計</b>	<b>245,981</b>	<b>合計</b>	<b>245,981</b>

(注)業種区分は、日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

## 「経営者保証に関するガイドライン」への取り組み

当金庫では、「経営者保証に関するガイドライン」の趣旨や内容を十分に踏まえ、お客様からお借入れや保証債務整理の相談を受けた際に真摯に対応するための態勢を整備しています。また、経営者保証の必要性については、お客様との丁寧な対話により、法人と経営者の関係性や財務状況等の状況を把握し、同ガイドラインの記載内容を踏まえて十分に検討するなど、適切な対応に努めています。

	2025年度 上半期
新規に無保証で融資した件数	888件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	38.98%
保証契約を解除した件数	76件
経営者保証に関するガイドラインに基づく保証債務整理の成立件数(当金庫をメイン金融機関として実施したものに限る)	0件

## 金融再生法に基づく開示債権の状況

### 金融再生法開示債権および信用金庫法開示債権の保全・引当状況

区分	2025年3月末	2025年9月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,193	2,310
危険債権	10,747	11,391
要管理債権	867	700
三月以上延滞債権	-	-
貸出条件緩和債権	867	700
小計(A)	13,808	14,402
保全額(B)	12,272	12,770
個別貸倒引当金(C)	1,817	1,990
一般貸倒引当金(D)	34	20
担保・保証等(E)	10,420	10,759
保全率(B)/(A)	88.87%	88.66%
引当率((C)+(D))/(A)-(E)	54.66%	55.19%
正常債権(F)	234,768	236,046
総与信残高(A)+(F)	248,577	250,449

(注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権です。  
 2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」に該当しない債権です。  
 3. 「要管理債権」とは、信用金庫法上の「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額です。  
 4. 「三月以上延滞債権」とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」および「危険債権」に該当しない貸出金です。  
 5. 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」および「三月以上延滞債権」に該当しない貸出金です。  
 6. 「個別貸倒引当金(C)」は、貸借対照表上の個別貸倒引当金の額のうち、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」および「危険債権」の債権額に対して個別に引当計上した額の合計額です。  
 7. 「一般貸倒引当金(D)」は、貸借対照表上の一般貸倒引当金の額のうち、要管理債権の債権額に対して引当した額を記載しております。  
 8. 「担保・保証等(E)」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額の合計額です。  
 9. 「正常債権(F)」とは、債務者の財政状態および経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」および「要管理債権」以外の債権です。  
 10. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」および「正常債権」が対象となる債権は、貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還および利息の支払の全部または一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未取利息および仮払金ならびに債務保証見返の各勘定に計上されるものならびに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借または貸付契約によるものに限る。)です。

### 不良債権比率

	2025年3月末	2025年9月末
	5.55	5.75

## 有価証券の時価情報

2025年9月末の評価差額・含み損益は、国内金利が上昇したものの、エクイティ等の上昇により前期末比約3億円の好転となりました。

	2025年3月末			
	時価	評価差額	うち益	うち損
その他有価証券	161,954	△8,586	606	9,192
株式	626	96	115	19
債券	118,847	△8,169	12	8,182
その他	42,479	△513	478	991
外国証券	37,990	△700	27	728

	2025年9月末			
	時価	評価差額	うち益	うち損
その他有価証券	161,302	△8,231	932	9,164
株式	682	146	156	9
債券	119,985	△8,423	15	8,438
その他	40,634	44	760	716
外国証券	35,969	△643	27	671

	2025年3月末			
	貸借対照表計上額	含み損益	うち益	うち損
満期保有目的の債券	1,001	△3	6	9
子会社・子法人等株式および関連法人等株式	10	-	-	-

	2025年9月末			
	貸借対照表計上額	含み損益	うち益	うち損
満期保有目的の債券	939	△6	4	10
子会社・子法人等株式および関連法人等株式	10	-	-	-

(注) 2025年9月末の「評価差額」および「含み損益」は2025年9月時点の貸借対照表計上額(償却原価法適用後)と時価との差額を計上しております。

## 自己資本の充実の状況等(単体)

### 自己資本の充実度に関する事項

	2025年3月末		2025年9月末	
	リスク・アセット等	所要自己資本額	リスク・アセット等	所要自己資本額
イ. 信用リスク	255,528	10,221	268,836	10,753
(1) 標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	240,336	9,613	253,946	10,157
① 外国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-
② 外国の中央政府等以外の公共部門向け	276	11	278	11
③ 我が国の政府関係機関向け	486	19	275	11
④ 金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	28,298	1,131	28,319	1,132
⑤ 法人等向け	62,881	2,515	66,501	2,660
⑥ 中堅中小企業等向け及び個人向け	32,021	1,280	31,984	1,279
⑦ 不動産関連向け	60,778	2,431	61,522	2,460
⑧ 劣後債権及びその他資本性証券等	11,509	460	12,805	512
⑨ 延滞等向け	8,079	323	7,810	312
⑩ 自己居住用不動産向けエクスポージャーに係る延滞	632	25	655	26
⑪ 取立未済手形	34	1	42	1
⑫ 信用保証協会等による保証付	1,689	67	1,912	76
⑬ 株式等	4,856	194	4,537	181
⑭ 上記以外	28,792	1,151	37,299	1,491
他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	14,767	590	23,583	943
信用金庫連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	3,250	130	3,190	127
特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー	2,521	100	2,517	100
上記以外のエクスポージャー	8,253	330	8,008	320
(2) 証券化エクスポージャー	15,191	607	14,890	595
証券化(STC・不良債権証券化適用対象外分)	15,191	607	14,890	595
(3) リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	-	-	-	-
(4) 未決済取引	-	-	-	-
(5) 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	-	-	-	-
(6) CVAリスク相当額を八パーセントで除して得た額(簡便法)	-	-	-	-
(7) 中央清算機関関連エクスポージャー	-	-	-	-
ロ. オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	11,010	440	11,010	440
ハ. 単体リスク・アセットの合計額及び単体総所要自己資本額(イ+ロ)	266,538	10,661	279,846	11,193

(注) 1. 所要自己資本額=リスク・アセット等×4%。  
 2. 「エクスポージャー」とは、資産(派生商品取引によるものを除く)ならびにオフ・バランス取引および派生商品取引の与信相当額等のことです。  
 3. 「延滞等」とは、次の事由が生じたエクスポージャーのことです。  
 ① 金融再生法施行規則上の「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」に該当すること  
 ② 重大な経済的損失を伴う売却をおこなうこと  
 ③ 3か月以上限度額を超過した当座貸越であること  
 4. オペレーショナル・リスク相当額の算出方法は、標準的計測手法かつILM「1」を採用しております。  
 5. マーケット・リスクに関する事項は該当がございません。  
 6. 単体総所要自己資本額=単体リスク・アセットの合計額(単体自己資本比率の分母の額)×4%

### 銀行勘定における金利リスクに関する事項

IRRBB1:金利リスク					
項番		イ		ロ	
		△EVE		△NII	
		2025年9月末	2025年3月末	2025年9月末	2025年3月末
1	上方パラレルシフト	3,211	3,234	958	617
2	下方パラレルシフト	-	-	912	906
3	ス テ ィ ー プ 化	2,243	2,572		
4	フ ラ ッ ト 化				
5	短 期 金 利 上 昇				
6	短 期 金 利 低 下				
7	最 大 値	3,211	3,234	958	906
		ホ		へ	
		2025年9月末		2025年3月末	
8	自 己 資 本 の 額	32,075		31,504	

当金庫の2025年9月期の△EVEの最大値が自己資本の額に占める割合は、10.012%であり、監督上の基準値とされている20.000%以内で金利リスク管理上、問題のない水準であると認識しております。

(注) 「△EVE」とは、金利ショックに対する経済価値の減少額、「△NII」とは、金利ショックに対する金利収益の減少額のことです。

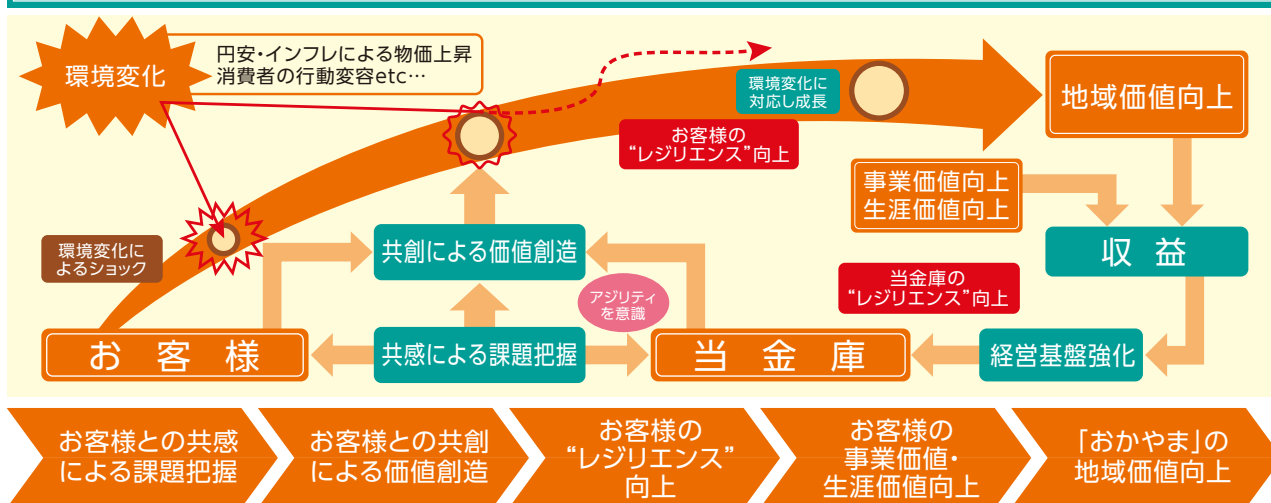


# 2023～2025年度中期経営計画 「おokayましんきんResilienceプラン」 ～共感から共創へ～

当金庫は、変化が激しく不確実性が高い現在の外部環境に対応し、お客様と当金庫がともに成長するために、お客様と当金庫の“レジリエンス(resilience)”<sup>※1</sup>を高めることを目指す新中期経営計画「おokayましんきんResilienceプラン」を2023年度からスタートさせております。

※1 レジリエンス(resilience):一般的に「復元力、回復力、弾力」などと訳される言葉で、近年は「困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びる(成長する)力」の意味で使われます。

## 中期経営計画での取組み



当金庫は、お客様の“レジリエンス”を高めるために、「お客様への共感による課題把握」をベースとし、アジリティ<sup>※2</sup>を意識しつつ、「お客様との共創による価値創造」へと踏み込むことを目指すとともに、当金庫の経営基盤を一層強化することで当金庫自身の“レジリエンス”を高める取組みを進めてまいります。

※2 アジリティ(agility):一般的に「機敏性、敏捷性」などと訳される言葉で、近年は「状況に素早く対応できる力」の意味で使われます。

## 主要施策

### ■「共創」によるお客様・地域の“レジリエンス”向上

- 事業先のお客様に対する「共感による課題把握」をベースとした「共創による価値向上」への取組み
- 個人のお客様に対する資産マネジメント提案の強化
- SDGs・環境保全に向けた取組みの推進

### ■当金庫の“レジリエンス”向上

- ゼロベースでの業務見直し  
～効率性と生産性の両立～
- 外部環境の変化を踏まえたコストマネジメントの見直し・強化
- リスクアペタイト・フレームワークの浸透  
～リスク対比収益の概念の定着～

### ■「共感力」「共創力」の強化

- 「共感力」「共創力」の高い人財の育成
- 「共感力」「共創力」発揮のための効率的な経営資源配置  
～店舗体制・各営業店の営業テリトリーの見直し～
- 本部の営業店に対する「共感力」「共創力」の強化